

2,200人
が参加しました

「9.25 いのちまもる総行動」

医療機関等の経営基盤強化とケア労働者の大幅増員・大幅賃上げを求めて



伊原和人厚生労働事務次官（写真中央）

現場の声を届けました「厚生労働省要請」

9/25 木

9月25日東京・日比谷野外音楽堂に全国から約2,200人の医療・介護・福祉関係者が集い「9・25いのちまもる総行動」が開催されました。物価や光熱費の高騰が続くなか、診療報酬・介護報酬の改定が追いつかず、多くの医療機関や介護事業所が収支悪化に苦しんでいます。こうした現状を受け、本総行動では「ケア労働者の大幅増員・大幅賃上げのために、診療報酬の大幅な引上げ改訂」や「従来の保険証を残し、高額療養費制度改悪の白紙撤回、医療・介護・福祉・保健の現場を守る」について強く訴えました。

集会冒頭、佐々木悦子日本医労連委員長は「医療費4兆円の削減や社会保障費の抑制が進むなか医療機関の厳しい運営状況」について訴えました。その後、集会に賛同されている各政党の国会議員が集会応援に駆けつけ医療現場改善を共に求めていくことを確認しました。リレートークでは、医療・福祉の現場では昨今の景気良い賃上げニュースとはかけ離れ、医療現場では厳しい現状について参加者は厳しい現状について参加団体より現場の生の声を訴えました。集会終盤には、厚生労働省に向かって「ケア労働者を増やし賃金を改善させること」および「安全安心な医療提供体制を守ること」を求め集会参加者全員でシュプレヒコールを上げました。集会終了後、銀座までパレードを行い医療現場の現状を沿道の通行者へ訴えを届けました。

その後、集会に参加した各団体代表は厚生労働省に移動し「厚生労働省要請」を行いました。今回、ご対応いただいたのは伊原和人厚生労働事務次官で直接現場の声を届けることができました。医療現場における諸問題については理解を示していただいても、解決には予算が必要であることから多方面からの財務状況を鑑みながら検討していきたいとのことでした。

社会情勢、経済など不安要素が様々ある現状ですが「安心・安全な医療提供のため」にも、働く医療者の環境が「安心・安全になること」を切望します。（病院協議会議長 長谷川信）

国公立大学・大学共同利用機関・高専で
働く教職員のみなさん

あなたもぜひ組合へ!!

今、多くの課題に
直面しています本当はやりたいことが
たくさんあります

わたしたち組合は

- 教**育・研究・医療の充実にむけて、関係省庁や国会議員等へ予算や政策に関する要請を行っています。
- 労**働条件の改善や日々の困りごとの解決をめざして法人と協議を行っています。
- 分**野や職種、世代を超えて、教職員一人ひとりをつなぐ存在をめざしています。

いっしょに、より良い
教育・研究・医療をつくりましょう!

▲記者会見



▲財務省会見



▲文部科学省会見



▲中教審での意見発表



▲日本学術会議との懇談



▲厚生労働省要請



▲国会議員要請

全大教新聞

2025年11月10日

第437号

【発行所】

全国大学高専教職員組合
(略称・全大教)[PDF版(全面カラー)]
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

[電話] 03-6802-4250

[HP] <http://zendaikyo.or.jp/>[所在地] 〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル2階* 組合員の購読料は
組合費に含まれて
います

今月の紙面

- 2 取り組みについての報告
「新潟大学 よりよい職場環境アンケート調査結果」
「岐阜大学 団体交渉の結果について」
「名古屋大学 総長会見で学内の意見を伝える」
3 論壇「子育て支援なぜ機能しない?」
岐阜大学地域科学部教授 河合 壘

- 4 単組からのレポート
・旭川工業高等専門学校
「組合の現状と労働環境改善」
・大分大学
「働くすべての人の
結節点となる組合を目指して」